

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.23
5・6月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



フェリス・フラウエンコーア 「BS-TBS日本名曲アルバム」より

街を愛し、愛されるー

== INDEX ==

Pick Up Artist

堤 剛・萩原 麻未
奥村 愛・大萩 康司
フェリス・フラウエンコーア

さくらプラザ館長の『東へ西へ』

さくらプラザ自主事業レポート

アートバザール 2017

とつかストリートライブ春フェス

連載

なるほど! THE LEAPS の戸塚お稽古道場
ヨーロッパ演奏紀行
吹奏楽の達人
男は背中では語る 戸塚見返親仁
出張! 戸塚新聞



チェリスト
つつみ つよし
堤 剛

ピアニスト
はぎわら まみ
萩原 麻未

未知の世界に踏み込んでいけるような、幸せな出会い

さくらプラザが開館した2013年秋、「無伴奏チェロ・リサイタル」にご出演いただいた堤 剛さん。約4年ぶりとなる公演は、ジュネーヴ国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝した若きピアニスト 萩原 麻未さんとのデュオリサイタルとなります。お互いの才能を尊敬し合う、愛があふれるインタビューをお届けします。

田中 啓介 (以下、田中)：おふたりで演奏されるきっかけは何だったのでしょうか？

堤 剛(以下、堤)：私が萩原さんの演奏を聴き、素晴らしいと感じたことがきっかけですね。マネージメント事務所が同じだったこともあり、わりとすんなりと実現しました。萩原さんは(ヴァイオリニストの)成田達輝さんとのデュオや室内楽などに慣れていらっしゃる方ですので、一緒に演奏するとインスピレーションをいただきます。

田中：堤先生は今までのいろいろな方と共演されてきたかと思いますが、萩原さんとの演奏はいかがでしょうか？

堤：ご本人を前にして言うのもなんですが(笑)。音に対しての感覚や音楽の作り方など、私が経験したことのないようなものを持っていらっしゃる方ですね。一緒に演奏していると、以前にやった曲であっても新しい発見がたくさんあるんです。もちろんお人柄も素晴らしいですし、一緒に弾いていてとても楽しいのですが、それ以上に私にとって今までなかった未知の世界に踏み込んでいけるような気がして、本当に幸せな出会いだと感じています。

田中：萩原さんはいかがでしょうか？

萩原 麻未(以下、萩原)：私にはもったいないようなお言葉をたくさんいただいてしまって……！ 本当に嬉しいです。堤先生とご一緒するお話をいただいた時は、本当にびっくりして“私で良いのか？”と自問自答しました。本番やレコーディングの前に、桐朋学園大学で一緒に演奏する機会がありましたよね？
堤：ありましたね。実際に演奏して、“デュオとしてうまくいくだろう”と確信し、本格的に始動し始めたんです。

田中：萩原さん、堤先生と一緒に演奏されて、今までのソロや室内楽との違いなどはありましたか？

萩原：たくさんありますね。本能的に、全身の細胞を100%以上、神経を研ぎ澄ませて吸収したい気持ちになります。堤先生の音楽から発せられている、目に見えないエネルギーを最大限受け止めたいという一心で演奏していますね。

田中：演奏される時に、大事にしていることはありますか？

萩原：嘘をつかないことでしょうか。音楽は嘘がつかない、自分のすべてが現れると思うんです。常に真摯な気持ちで音楽に寄り添っていたいなと思っています。そしていつも、共演者やお客様、公演に関わってくださるすべての皆様と音楽の神様に感謝の気持ちでいっぱいになります。



田中：そのようなことは、堤先生と演奏される時にどういった意味を持ちますか？

萩原：こうして堤先生とご一緒させていただく時間はかけがえのない時間ですし、本当に感謝の気持ちしかないです。

田中：堤先生は萩原さんと一緒に演奏されていかがでしょうか？

堤：そんな風に言うだけで本当に有難いですね。萩原さんの演奏は、色彩感など素晴らしいところがたくさんあります。私が音楽監督をしている霧島音楽祭に二度ほど出演させていただいたのですが、彼女の演奏からは音楽的なエネルギー、そして音楽を引っ張ってくれるリーダーシップをとっても感じるんですね。音楽に寄り添いながらも彼女自身をちゃんと活かしている。ピアノトリオやカルテットであっても、やはりピアノが中心になるわけで、いわゆる“扇の要”はピアノなんですよ。音楽的なリーダーシップがあるということは、自分の中にたくさんのものがあって、それを本番で発揮できることですね。練習の時にものすごく良くて本番になるとイマイチという方もいらっしゃいますし。萩原さんは本番の時に良さが一番出るので羨ましいと思います。

田中：萩原さんはとても楽しそうに演奏されますよね。

萩原：楽しいです……！ それがみなさんに伝わっていたらいいなと思います。

田中：今回おふたりでCDをリリースされるそうですが、選曲はどのようにされたのでしょうか？

堤：一番大事なことはピアノもチェロも生きる曲ということですね。たとえ「チェロ・ソナタ」であっても、ピアノも大変なんです。音数も多いし。

だからまずは萩原さんが弾きやすい曲をやってみようと思いました。フランクやシュトラウスから始め、ゆくゆくはベートーヴェンなどを一緒に演奏できたらいいなと思っています。萩原さんのピアノは本当に素晴らしく、ある意味ユニークな演奏だと思います。今までの常識にとられないで新しい世界を切り拓いていけるような……。教えられることも多く、私の歳になっても そういう方と一緒に演奏できることが本当に有難いなと思います。

田中：今回レコーディングされて、新しい発見もあったということでしょうか？

堤：そのとおりですね。褒め言葉ばかりになってしまいますが、萩原さんはとてもエネルギーを持っていらっしゃるんですよ。それは優しいエネルギーでもあるし、音楽を引っ張っていくエネルギーでもある。彼女の中に秘めているものが多くて、時々それを感じて“(自分も)もう少し頑張らなきゃな”と思うんですよ(笑)。

田中：萩原さんは堤先生と一緒に演奏されて、発見したことや影響を受けたことはありましたか？

萩原：学ばせていただくことばかりです。ピアノを始めた幼い頃から堤先生のことを尊敬していたので、今こうしてご一緒していることが私にとってこの上ない幸せですし、家族も大喜びして涙ぐんでいます(笑)。

田中：ところで、腕に着けていらっしゃるのはブレスレットでしょうか？ 気になっている方も多いと思いますが……。

萩原：はい、普段から身に着けていてお守りのようになっています。特別なもので作られているわけではないのですが。

田中：ジュネーヴ国際コンクールの時も？

萩原：着けていましたね。



田中：縁起を担いで、ということでしょうかね。これだけは聞こうと思って来たんです(笑)。さて堤先生、さくらプラザでの演奏会は開館記念公演以来、4年ぶりになりますね。

堤：そうですね。その時は同じくチェリストのジャン＝ギャン・ケラスと、それぞれ無伴奏曲をやりましたね。演奏してみて素晴らしいホールだなと思いました。私は藤沢で育ったもので子供の頃から戸塚は知っているのですが、見違えるように素晴らしくなって。とても嬉しいです。



田中：前公演では、ものすごく長い時間集中してリハーサルをされていましたね。堤先生はやはり毎回全曲通してリハーサルされるのでしょうか？

堤：全曲通したほうが良いですね。必要ないという方もいらっしゃると思いますが。私のチェロは1733年に作られたとても古い楽器なんです。木というのは280年ほど経っていても生き続けているんですよ。そして楽器製作者がひとつひとつカンナをかけて作っているの、想いがこもっているんです。だから「はい、それでは今日は戸塚のホールで演奏します。」ということでは、音はうまく鳴ってくれません。そのホールにチェロそのものが、湿度や空気にだんだんと慣れてくるんです。そうすると私がやりたい音を表現しやすくなるため、毎回リハーサルには長時間かけています。

田中：前公演の時も「演奏を始めた頃と終わる頃で、音が違うでしょう？」とおっしゃっていましたね。

堤：そうでしたね。レコーディングでも、やはり演奏しているうちにだんだんと馴染んで音が鳴ってくるんです。ピアニストの場合は自分の楽器で演奏するわけではないですから、自分の音を作るのは大変じゃないですか？

萩原：ピアノもホールの中で生きて思うんですよね。私はそれぞれのホールで生きてきたピアノと出会うことが好きなんです。調律師さんに助けていただきながら、そこで育ってきたピアノとできるだけ同化できたらいいなとも思っています。

堤：ある意味、調律師とピアニストは一体ですよ。ただ単に調子を合わせるということだけではなく、“萩原さんの音”を作ってください。

萩原：私が弾いた音を感じ取って直してくれるんです。ピアニストは調律師さんなくては舞台上に立てないと思っています。

堤：私の場合は、楽器の調整を弦楽器ウエキという所をお願いしています。私がどのような音を求めているか、どうしたらこの楽器が一番よく鳴るかなどそういった目で調整してくださるので、その技術力には助かっていますね。調整してくださる方によって、全然違ってくるんです。

田中：開館から4年経ち、さくらプラザホールが良い音で鳴ることを願っています。

堤：サントリーホールも昨年30周年を迎え、ずいぶん音が進んできましたね。木が乾いてきたとか、いろいろな理由があると思いますが、年月を経れば経るほどホールも良くなってくると思います。前公演との音の違いを楽しみにしています。

田中：ありがとうございました。

(取材：田中 啓介／文・構成：桑田 春花)

堤 剛&萩原 麻未 CDリリース記念 デュオ・リサイタル
2017年7月2日(日)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。



Pick Up Artist ②

ヴァイオリニスト
おくむら あい
奥村 愛

ギタリスト
おおはぎ やすじ
大萩 康司

ふたりの穏やかな空間で奏でられる、上質な調べ

6/24(土)「奥村 愛 & 大萩 康司 デュオコンサート ~ヴァイオリンとギターの織りなす上質な調べ~」の公演を前に、共演するようになったきっかけからクスクスと笑ってしまうエピソードまで、たくさんのお話を伺いました。

—おふたりで演奏するようになったきっかけを教えてください。

奥村 愛(以下、奥村):2008年の子ども向け公演が最初です。そこでヴァイオリンとギターとサクソで演奏したんですが、音のバランスが難しかったですね。

大萩 康司(以下、大萩):当時はPA(音響機材)を上手に使えていなかったこと、あまり大きな音量にならないPAを使っていたのでバランスが難しかったです。ギターは音が小さいんだなあと痛感しましたね。

奥村:そのときから2年に一度くらい、大萩さんと一緒に演奏する機会がありました。

大萩:一緒にさせていただく中でデュオでいろいろできそうだなと感じたのがきっかけです。

奥村:わたしもそうです。やっぱりギターいいなあ。

大萩:それに、ヴァイオリンとギターだどこでも演奏できます。ピアノだとピアノのある場所で、調律師さんに調律してもらわないといけないなど条件がありますが、ギターもヴァイオリンも自分ひとりで調律ができるので、野原でも演奏できます(笑)。

ただ、このデュオでの曲が少ないので編曲など準備することが多いんですが、やりがいがありますね。

奥村:普段は基本的にはピアニストの方との共演が多いです。場合によってはピアノが置いていない場所だったり、ピアノが入らない場所があるので、ギターの方にお願いすることも多くなってきました。ですが大萩さんがおっしゃったように、このデュオでのオリジナル曲が少なく、皆さんが聞いたことのある有名な曲を演奏しようとする(音数の多い)ピアノの譜面をギターの方に演奏していただくことになります。すごく負担になってしまうのではと思いあまり気軽には頼めないんですが……。

大萩:演奏できない曲もあるんですが、探せば演奏できる曲もあるということを公演を重ねながらちょっとずつ実感しています。

以前、チェロとギターでシューベルトの「アルペジオーネ・ソナタ」を演奏したときに、ピアノではなくギターでもアプローチの仕方があるんだと感じました。そうやって少しずつレパートリーを増やしています。

—2016年 6月にさくらプラザのアウトリーチで戸塚区にある「柏桜荘」でデュオコンサートをしていただきましたが、そのときは久しぶりの共演ということを伺いました。

奥村:3年振りですかね。

—演奏ももちろん素敵だったのですが、トークもとても面白かったです。



大萩:固くなりすぎてもちょっと寂しいので、リラックスしてできたらと思ったんです。

—その雰囲気もすごく素敵で、お互いを信頼されているのが伝わってきました。

大萩:それはもう、こちらからは完全に信頼してます!(笑)

—大萩さんから見て、奥村さんはどういう方でいらっしゃいますか?

大萩:とても綺麗な方なので真面目にお話ししなきゃいけないかなと初めは思ったんですが、男性的なところもあって、気を遣いすぎないでいられる方です。あまりにもお姫様な感じの方だと疲れちゃうんですけど、そういう感じじゃないのすごく有り難いなあと(笑)。

奥村:嬉しいです(笑)。

—それでは奥村さんから見て、大萩さんはどういう方でいらっしゃいますか?

奥村:大萩さんのことはお会いする前から知っていました。大萩さんがフランスに留学されているときにフランスにいる友人から、「すごい素敵なギタリストがいるの!」という話をずっと聞いていました。なので、一緒にさせていただいたときに「どうしよう、あの大萩さんだ!」と思ってドキドキしました(笑)。

真面目でとても優しいんですけど……ちょっとシャイですか?

大萩:すごく人見知りなんです。

奥村:やっぱり! 「大萩さんはすごく面白い!」という話をよく聞んですけど、未だにそこまでの大萩さんは見れていないかな(笑)。

大萩:そういえば、よく忘れ物をするんですよ。そういうところが天然だと言われることもあります。

実際、一昨年のクリスマスライブに打合せがあったのですが、去年のクリスマスライブにもう一度同じ打合せ場所に行っちゃって(笑)。

奥村:え!? 記憶力がすごい!!! (笑)

—今回のさくらプラザでの公演プログラムはどのように決められましたか?

奥村:オリジナルの曲が少ないからといって、それを全部やってしまうとちょっとマニアックになりすぎちゃうかな。でも私はギターがどこまで編曲して演奏できるのかがよく分からないので、大萩さんにいろいろとアドバイスをいただいていますね。

大萩さんご自身がすごく発想豊かな方なので、「こういう方法もあるんだ!」といつも素晴らしいなと思っています。

—ヴァイオリンとギターのデュオの特徴はありますか?

大萩:ヴァイオリンとギターは19世紀ではポピュラーな組み合わせでした。特にパガニーニはヴァイオリンとギターの曲を山ほど書いていますが、その中で対等に渡り合っている曲は片手で数えられるくらいしかありません。ほとんどの曲はギターが伴奏型になっています。その理由としては、パガニーニが当時お付き合いしていた女性ギタリストが、恐らくそんなに弾ける人ではなかったからだと思います。だからコード進行(伴奏型)が多いんだろうな。

それからしばらくして作風がガラッと変わる時期があるんですが、そのときにギターの弾ける友だちが出来たんだろうなとわかるような曲があるんです。それは今度さくらプラザで奥村さんと一緒にさせていただく「パガニーニ:協奏的ソナタ」で、本当にオリジナルだし、聴きごたえもあるんじゃないかな。サロンの曲で素敵だと思います。

奥村:いわゆるヴァイオリンでバリバリ弾くパガニーニとはまたちょっと違って古典の要素もあるので、曲を知らなくてもわりと聴きやすいんじゃないかなと思います。どちらも木で出来ていて形も似ている楽器どうしなのもあって、音色が牧歌的な感じがします。普段はピアノとヴァイオリンの組み合わせが多いんですけど、このデュオの温かい空気が流れるところが好きです。

大萩:以前、ベルリオーズが作曲したオペラを演奏させていただいたんですが、ギターが出てくる場面って飲み屋さんですよ。楽隊、なんか歌えー!みたいな雰囲気のあとにギターを弾くんです。ギターは大衆寄りの楽器で、ラッパの人たちと一緒に演奏しているイメージだったみたいです。



そういう性格を持っている楽器なのでほんわかした感じの曲が多いのかな。

パガニーニが作曲したヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ギターの四重奏(カルテット)では、ギター以外の楽器が頑張っているところで、ギターが出てきた瞬間に“ちょっと休憩”みたいな雰囲気が多いんです。ギターも一生懸命演奏しているんですけど、響きとしてはすごく和むんですよ。

ギターは音が小さくて、兄弟でいうと末っ子のような扱いなんだと思います。それを分かって弾いていないと、いくらがむしゃらに頑張ったって「よく頑張ったねー。」くらいに聞こえちゃうんです。ギターの性格を分かって演奏したほうが良い結果が得られるのかなという気がします。

だからといって“怠ける”という意味ではないんですけど、僕自身ギターの良さをもっともっと知っていかないといけないなと思いますね。

—今回さくらプラザ・ホールでの公演で、ヴァイオリンとギターの良さを皆さんに聴いていただけますね。

大萩:さくらプラザのホールは18世紀、19世紀のサロンの雰囲気があります。

2016年9月「CDリリース記念 特別レクチャーコンサート」で演奏させていただいたときに何種類かのギターを演奏してみたのですが、響きがどのギターにもちゃんと応えてくれたんです。ヴァイオリンと一緒に演奏した場合、どのように響くのかもとても楽しみにしています。

—奥村さんは2013年3月「KIDSのためのクラシックコンサート」で、さくらプラザにご出演していただいた以来です。

奥村:あのときは編成(※)も全然違うので、気持ちを新たに演奏したいと思います。

地方のコンサートホールに行っても客席で聴く機会はほとんどないんです。でも、さくらプラザ・ホールは演奏もしましたし、客席で聴かせていただいたこともあります。そういった意味では、他のホールに比べて雰囲気が分かるので演奏しやすいですね。

—とても楽しみにしています。ありがとうございました。

(取材・構成:石村 里美)

※奥村愛(ヴァイオリン)、前田尚徳(ヴァイオリン)、山田那央(ヴィオラ)、奥村景(チェロ)、小柳美奈子(ピアノ)

さくらプラザホームページで、奥村さん、大萩さんメッセージ動画公開中!

奥村 愛 & 大萩 康司 デュオコンサート
~ヴァイオリンとギターの織りなす上質な調べ~
2017年6月24日(土)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。

好評
発売中

Pick Up Artist ③

女声声楽アンサンブル フェリス・フラウエンコーア

BS-TBS「日本名曲アルバム」でもおなじみ フェリス女学院大学のミュージズたち。

横浜を拠点にさまざまな場所で活躍しているフェリス・フラウエンコーア。6月11日さくらプラザに初登場です。山手にあるフェリス女学院大学へ伺い、インタビューをしてきました。彼女たちの魅力に迫ります！



◆取材にご協力いただいたフェリス・フラウエンコーアのメンバーと先生
 指導・指揮：土屋 広次郎先生
 卒業生： 漆間 有紀さん・加藤 玲菜さん・小松 紗也さん・畑中 紫甫さん
 大学院生： 天沼 朝子さん・大島 沙友理さん・黒川 青葉さん・佐藤 ゆいさん
 関 桃子さん
 在学生： 小出 真琴さん・佐藤 麗奈さん

—アンサンブルはハーモニー、歌声の響きをまとめることが大切か
 と思います。その点で撮影現場はいかがですか？

大島：ほとんどお互いの声が聴こえないこともあります。それでも、隣の人の声と、何より指揮をしてくださっている先生を信じて歌っています。

畑中：信頼関係が大事ですね。



左から、関 桃子さん、大島 沙友理さん、畑中 紫甫さん

—収録の時の衣装はとても華やかですね！

畑中：ありがとうございます。メンバーの中で1つだけ決めていることがあるんです。どんな公演の時も、必ず“パステルカラー”！

大島：黒など、濃い色は絶対着ちゃダメ(笑)。

畑中：ドレスの色合いを決めてくれる人が必ずいます。その子が、「次のテーマはこうしましょう」と言ってくれるんです。あとは並び順も気にしています。隣の子と色がかぶらないように話し合っていきます。

一度私がすごくボリュームのあるドレスを着たことで、全体にバランスが取れなかったことがあって……。その次の撮影の時に土屋先生に、「全員でスカートの広がり方や大きさは揃えましょうね」と言われてしまって。あー、私のことだ！ とちょっと焦りました。

大島：ドレスにも気を遣っているの、公演当日も楽しみにしててください。

「フェリス・フラウエンコーア」に迫る

—お話を聞いていると、本当に仲が良いのがわかります。

大島：メンバーのほとんどが違う学年なんですけど、先輩方が優しいので、いつも練習は楽しいです。公演日が近くなると、各パートごとで先輩方からのアドバイスを聞いて、たくさんのごことを吸収しています。

畑中：後輩たちはみんな真面目で、音楽に誠実に取り組んでいるので、その姿勢を見て私たちが初心に帰れたりしています。普段はクラシックを専門に歌っていますが、「日本名曲アルバム」では、歌謡曲やジャズ風の曲も歌うことも多くあります。リズムの取り方がかなり難しく、私たち(先輩)でも捉えきれないところもあって……。そういったところは先輩後輩関係なく意見を出し合って、お互いの刺激にしています。

—グループの活動だけでなく、個人でも声楽家としての活動や、練習などもあるかと思いますが、どのように活動を両立をされていますか？

関：そうですね、両立というか、ふたつを上手く切り替えています。耳馴れている曲でも、楽譜に起こすと意外と音符が多かったり、数えないと正しいリズムがわからないような曲もあるので、なるべくグループで演奏する曲は譜読みを早めしておくようにしています。ソロの曲で練習に行き詰ったりした時にリフレッシュ感覚で合唱曲を歌って楽しい気持ちになったりなど、うまくローテーションをして切り替えをしています。

—歌われる曲はご指導と指揮をされている土屋 広次郎先生と西 由起子先生が選ばれているとのことですが、本当にジャンルが幅広いんですね。

畑中：クラシック、宗教曲、ポップス、ミュージカル、オペラ、童謡など、幅広くなんでも歌っています。

大島：どんなジャンルの曲でも、基本的にはクラシックの発声で、“フェリスっぽく”“フラウエンっぽく”歌うことを大切にしています。

—幅広いジャンルを歌うことはフェリス・フラウエンコーアにとってどう活かされていると感じますか？

天沼：クラシック音楽に触れる機会が少ない方々がまだまだたくさんいらっしゃると思うんですけど、私たちが歌謡曲や、一般の方に親しまれている曲を歌うことで、“フェリス・フラウエンコーア”に興味を持ってくださる方が増え、私たちをきっかけに“クラシック”の世界に入ってください。そういう意味でもクラシック好きの層だけではないお客様の幅が広がったと感じています。ひとつのジャンルだけでなく、たくさんの音楽に挑戦することの大切さをとても実感しています。

—土屋先生、“フェリス・フラウエンコーアらしさ”とはどのようなイメージでしょうか？

土屋先生：女性らしい、やわらかい響きですね。それを引き出しているのが、ヴィブラートをあまりかけないところ。声学的に考えたらかかた方が良い。でも、かからないことが悪いわけではなく、むしろその方が耳馴染みが良い。それがフェリスサウンドになっている、と思っています。

そして“フェリスサウンド”に合う曲といえば、絶対“唱歌”と“宗教曲”です。これは外せない。その延長線で、ポップスを歌うとこんな風になるんだ、というのを聴いてほしい。

現在結成から4年経って今やっとな、女性らしい華やかで優雅な曲だけではなく、女の情念みたいなものを歌えるようになったよね(笑)。声も内面も成長してきたということでしょうか。

—フェリス・フラウエンコーアを今後はどう育てていきたいとお考えですか？

一同：それ、私たちが気になります。



前列左から：土屋 広次郎先生、佐藤 ゆいさん、天沼 朝子さん

土屋先生：これは公言していないことなんだけれど……。さくらプラザホールのように歌える場所がたくさんあるこの横浜に、音楽を溢れさせたい、という想いが僕の根本にある。ラ・フォル・ジュルネ(※)みたいに。横浜にはアーティストはたくさんいるけれど、誰も東ねていない状態だと思っています。みんなが「俺がやる、私がやる」って言っている状態だから、困っちゃうわけね。でもそれを東ねるものがあるとパッケージができてわかりやすくなる。

ゴールはわからないです。発展したい。発展するけど、どうなるかは分からない。勉強していることをちゃんと披露できて、街の人たちも喜んでくれる、「街で育つ」というヨーロッパスタイルを目指したいですね。日本は都市で育つから、人があふれてしまう。街に愛されるフラウエンにしていきたいです。
 ※ラ・フォル・ジュルネ：1995年フランス西部の港町ナントで誕生したクラシック音楽祭。「熱狂の日」と訳す。

—最後に、公演に向けての想いをお聞かせください。

畑中：やはり、コンサートホール主催の公演に出演できる、というのはすごくうれしい。というのと、あとはフェリス・フラウエンコーアがホールからお声を掛けてもらえるまでに周知をされてきているんだな、ということに喜びを感じています。今まで頑張ってきたよかったです、と率直に思いました。

大島：この企画を先生から伺ったのがだいぶ初期の段階だったんですけど、何か月も先のお話なのに今聞かされるってことは、すごく大きなプロジェクトなんだな、6月まで頑張ろう、という想いで今過ごしています。

一同：華やかな舞台、演奏を心待ちにしてください！

(取材・構成：山上 由布子)



BS-TBS「日本名曲アルバム」より

いつもリハーサル室で開催している名曲サロンですが、今回は会場をホールに変え、2時間の拡大版としてお届けします！

名曲サロンVol.8
 フェリス・フラウエンコーア～山手の丘から歌の花束～
 2017年6月11日(日)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。





ゲエチの前の広場の宵やみにサロメの開くをまちつる一人 佐佐木 信綱

ピアノグランプリ 2017 本選は、山手にあるホール・山手ゲーテ座で行われた。なぜ、さくらプラザではなく、山手ゲーテ座だったのか。それにはちょっとした経緯(いきさつ)がある。

このピアノグランプリは、市内文化施設や楽器店が実行委員会をつくって開催しているのだけれど、そのきっかけは同門の先輩である山手ゲーテ座のK氏だった。

協力を快く引き受けてくださった時に、「うちだけじゃなく。」と言った。つまり、他の団体も入れろよ！ という含みがある。で、その時耳元で神様がそっと囁いた。あるいは、頭の中で大音声で叫んだ。

「YOU、オール横浜で実行委員会にしちゃえばいいんじゃない!？」

ということで多くの区民文化センターが名前を列ねる現在の形になった。つまり、このピアノグランプリという企画が今の形で生まれたのが、ここ山手ゲーテ座なのだ。まあ、大概の企画はこんな風な感じで生まれる。神様のギフトで気がつくともうその形でそこにあるという感じ。

という訳で、今回は山手ゲーテ座を紹介する。

その名は、文豪ゲーテではなく、明治の初め、居留地の外国人が居留地の外国人のためにつくった劇場「ゲーテ座」に由来する。

ゲーテとは英語の「Gaiety(ゲイティ)=愉快・陽気」のこと。有楽座とか喜楽座といったところか。

初代ゲーテ座は、1870(明治3)年12月6日にオランダ人のノルトフーク=ヘフト氏(これすべてが苗字)によって居留地のアマチュア劇団のために建てられた。本町通りの谷戸橋交差点のあたりだ。

やがて、外国からプロの劇団などが来て公演をするようになり、居留地の娯楽と社交の場となっていく。

その後、より広いホールを求め、1885(明治18)年4月18日に谷戸坂上に建てられたのが2代目ゲーテ座だ。

演劇やコンサートが行われ、コンサートホールとしては東京音楽学校(現東京芸術大学音楽学部)の奏楽堂と並び称されるほどだったらしい。

大正元年、オスカー・ワイルドの『サロメ』が上演された時には、大佛次郎や芥川龍之介、久米正雄、小山内薫などが観劇し、歌人の佐佐木信綱が冒頭の短歌を詠んだ。

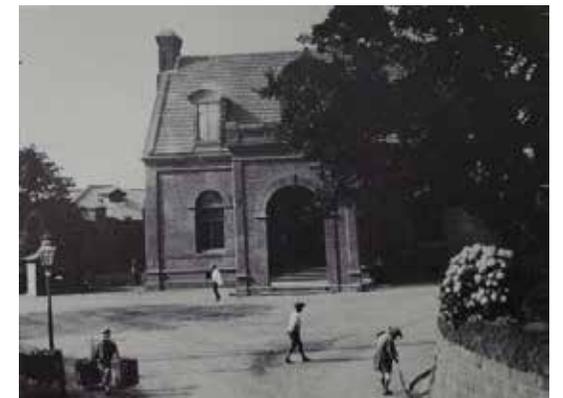
演劇については升本匡彦氏の研究があり詳細に知ることが出来るが、音楽についてはまとまった研究がないのではっきりとは分からない。滝廉太郎などの名前が残っていて、日本の音楽家たちにも大きな影響を与えたことだろう。ゲーテ座が日本の近代演劇、文学、音楽に与えた影響は計り知れない。

しかし、1923(大正12)年の関東大震災でどちらの劇場も瓦礫と化し、資料は消失、1975年ころまで歴史の底に埋もれていた。

その跡地を入手した学校法人岩崎学園が、1980年に創立50周年記念事業の一貫として服飾関係の資料・収集品を展示する博物館を建設した。それが岩崎博物館(ゲーテ座記念)だ。館内には都合三代目となる山手ゲーテ座を併設している。建設に先立ち1978年に発掘調査が行われ、往時の遺構やレンガなどが確認されている。その一部はゲーテ座の中に展示され、いまでも見ることが出来る。



ゲーテ座(本町通り)



ゲーテ座(山手)

出典(写真):「横浜ゲーテ座—明治・大正の西洋劇場」升本匡彦(著)／岩崎博物館出版局より

【退任のご挨拶】

3月末をもちまして、館長を退任いたしました。開館以来3年半の長きにわたり、大変お世話になりました。

今後は、少し離れたところから関わってまいります。引き続き、さくらプラザをよろしく願いいたします。(このコーナーは、続きます)



泉・栄・鶴見区民文化センター
統括プロデューサー

田中啓介

大野愛 Megumi Ohno／画家

横浜生まれ、横浜在住。
風景画をメインにシマシマ油彩画を制作。
Ai名義で日本画も手がける。



《個展》

- 2016.10月 「また来む秋は」 ミーツギャラリー(銀座)
- 2016.4月 「星の手向の」 JazzSpot J(新宿)
- 2015.12月 「おのがいる」 gallery fu(石川町)
- 2015.2月 「みてしがな」 FutureDesignGallery Uluru(馬車道)
- 2014.7月 「しなたかき」 gallery bar OPP(六本木) etc.

《今後の予定》

- 5/1(月)～5/31(水) 個展 JazzSpot J(新宿)
- 5/19(金) ライブイベント with 増尾好秋 JazzSpot J(新宿)
- 6/1(木)～約1ヶ月 個展 SVB YOKOHAMAキリンビール横浜工場(生麦)
- 7/3(月)～9(日) 個展 幸伸ギャラリー(銀座)

戸塚区民文化センター
さくらプラザ
アートバザール 2017年 3月3日~5日開催
2017
全館を使って、さくらプラザで行われているさまざまな活動を、演奏や展示によって紹介しました。

3日間の来場者数は延べ1,500名！ 当日の各会場の様子を、写真でご紹介します。

4F ホール

さくらプラザホールならではの響きを活かし、素敵な演奏を披露いただきました！



しらかわ ゆうき
白川 優希 (ピアノ)
♪シューベルト: 白鳥の歌より「セレナーデ」他



こぼやし もえか
小林 萌香 (ピアノ)
♪カプーステン: 「8つの演奏会用エチュード」より Op.40-3 「トッカティナ」



しまだ そよか (ピアノ)
嶋田 そよか (ピアノ)
♪ショパン: エチュード Op.10-8



しん あやね
進 絢瑛 (ピアノ)
♪安田英主: シャンソン気取り 他



みずの かなこ
水野 花奈子 (ピアノ)
♪ブーランク: 「ナゼルの夜会」より 前奏曲 他



クラリネットアンサンブル・レクラン
♪パッフェルベル: カノン 他



ザ・ダークネス (サクソ四重奏)
♪赤いスイートピー 他



フルートアンサンブル ラドゥーノ
♪ボワモルティエ: 5声のフルートによる コンセールより短調



横浜市立丸山台中学校 (金管八重奏 他)
♪金管八重奏 ゴフリチャーズ: 「ア・ラ・カルト」より V.IV.III 他



プリティッシュプラス・ラヴィアンローズ (英国式金管バンド)
♪ディズニー特集 他



アンケートでは「さくらプラザに初めて来ました」というお客さまが、3割以上いらっしゃいました！ぜひまた遊びに来てください。

4F ステンドグラス前

さくらプラザ **地産地消** マルシェ

昨年度も好評いただいた、戸塚区にある農家や商店の直売コーナー。各店自慢の品を販売していただきました！



- ①和菓子処 風月: まんじゅう・団子・最中等
- ②舞岡ふるさと村かねこふぁ〜む: 梅ジャム・ヤーコンのみそ漬け・ふきのとう等
ノスタルファブリック
- ③NOSTAL FABRIQUE: パン・焼き菓子
- ④アトリエ窓: ペーパーホルダー・キーホルダー・カード立て等

3F ギャラリー

3日間に渡り、絵画・手工芸作品の展示・販売を行いました！



こうようさいかい 恒陽彩会 虹の会
水彩風景画



こうようさいかい 恒陽彩会 スケッチ部
水彩画(風景)



アートクルール
デコパージュ、ワンストローク ペインティング



大谷 和一
切り絵・アクリル画・絵ハガキ



こうようさいかい 恒陽彩会 戸塚パレット
水彩画



こうようさいかい 恒陽彩会 舞岡パレット
透明水彩画



ガラスアートアクセサリーの会
オリジナル焼成ガラスをアレンジしたアクセサリー全般



タイ シルクハウス
タイシルク手織物の染織説明用写真パネル・パンフレット・雑貨、布製品



神奈川県 きりえの会
切り絵小品・額装・ハガキ・色紙



マイケル こうぼう maikel 工房
手作りキャンドル・キャンドル雑貨



大森 洋太郎
切り絵(日本一大きな切り絵)・水彩画アート(コミカル画)・木工品等



とつかアートプロジェクト
絵画・書・手工芸

4F 練習室

昨年もご出演いただいた「横浜蓄音機ミュージアム」「spica」など、主に横浜で活動するアーティストにご出演いただきました！



横浜蓄音機ミュージアム



spica ライブ



馬頭琴&ホーミー コンサート



サイレント楽器体験コーナー
協力: ヤマハミュージックリテイリング横浜店

4F リハーサル室

大きな窓が気持ち良いリハーサル室を使って、各40分間程度の無料体験を行いました！「気持ちよかったから、これからも続けたい！」というお声も！



ダンス体験

- 脳トレストレッチクラス 講師: ダンススタジオ・ユニスタ 高木未来
- リフレッシュ&ストレッチクラス 講師: ダンススタジオ・ユニスタ 駒場志保
- 歌って健康クラス 講師: ダンススタジオ・ユニスタ 倉山あけび
- 「ボディーワークス」ピラーティス体験 講師: ボディーワークス 橋本佳子

ご来場いただいたみなさま、出演・出展者のみなさま、ありがとうございました。アートバザールは今年度も開催予定です。お楽しみに！

とつか ソング コンテスト

TOTSUKA
SONG
CONTEST

2017年3月11日(土)開催
さくらプラザ・ホール

予選を勝ち抜いた11組のミュージシャンが
出場! “戸塚”をテーマにした個性豊かなオリ
ジナル曲による、ハイレベルな音楽バトルを繰
り広げました。

主催：とつかストリートライブ運営委員会 共催：戸塚区役所
協力：株式会社エフエム戸塚、株式会社そごう・西武 西武東戸塚店、
第4回 戸塚音楽祭 Rockin'TOTSUKA 78 (Rockin'YOKOHAMA155 実行委員会)、
フォーラム (男女共同参画センター横浜)
後援：FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk (テレビ神奈川)

とつかストリートライブとは?

戸塚区では「とつか音楽の街づくり事業」に取り組んでおり、音楽活動をする方々へ演奏の場を提供し、区民の皆様には音楽に親しむ機会を提供するなど「音楽の街とつか」の魅力を進めています。本事業の一環として、駅周辺の商店街や音楽関係団体、コミュニティFM、行政などが連携し、戸塚駅前ペDESTリアンデッキを中心に「とつかストリートライブ」を定期的に実施しています。

とつかストリートライブ HP <http://totsuka-st-live.jp>



審査員 戸塚区出身のミュージシャンをはじめ、戸塚ゆかりの方々に審査いただきました!

とつかストリートライブ運営委員会 委員長 石井 正樹
エフエム戸塚 放送部長 吉川 雅子
西武東戸塚店 販売部 部長 伊藤 仁美
男女共同参画センター横浜 館長 岩船 弘美

戸塚区出身ミュージシャン 横浜銀蠅 翔
戸塚区出身ミュージシャン 川戸 昌和
戸塚区出身ミュージシャン サイプレス上野
戸塚区民文化センター さくらプラザ 館長 田中 啓介

結果発表!



♪Tsu-ka-to



グランプリ 伊与木 一彦

8人の審査員によりグランプリに選ばれたのは、「Tsu-ka-to」を披露した伊与木さん! 「つかと、つかと、つかと〜」を繰り返すうちに「とつか」に聞こえるという言葉遊びを取り入れた歌詞がとてもユニークでした♪
《副賞》「音楽の街とつか テーマソング」「NHK-FM サウンドクルーズ出演」
「商品券3万円」



♪さくら道



♪とつかのうた



♪花筏(ハナイカダ)



♪君の住む街へ

ロックンツカ賞&オーディエンス賞 クローバー Clover

横浜銀蠅 翔さん・川戸昌和さんが選ぶ「ロックンツカ賞」と、来場者の投票で選ぶ「オーディエンス賞」とのダブル受賞!
《副賞》「Rockin' TOTSUKA 出演権」「とつかブランド詰合せ」「さくらプラザ 練習室利用券」

エフエム戸塚賞 ニューパーティールール New Party Rule

エフエム戸塚 吉川放送部長が選んだのは、熱いパフォーマンスで会場を盛り上げた New Party Rule!
《副賞》「エフエム戸塚 特別番組出演権」

フォーラム賞 みれい 美嶺 with ぷら☆とり!

フォーラム (男女共同参画センター横浜) の岩船館長が選んだのは、ヴァイオリンの美しい音色で戸塚の情景を奏でた美嶺 with ぷら☆とり!
《副賞》「フォーラムイベント出演権」他

西武東戸塚店賞 ハイソールリズム Hi-Soul Rhythm

西武東戸塚店の伊藤販売部長が選んだのは、軽快かつセンチメンタルな楽曲を披露したハイソールリズム!
《副賞》「西武東戸塚店 特別ライブ開催権」

オーディエンス賞には約250票の投票をいただきました!

ご来場いただいたみなさま、そしてオーディエンス賞にご投票いただいたみなさま、ありがとうございました!
さくらプラザは今後も「音楽の街とつか」を盛り上げていきます。



戸塚お稽古道場

Vol.1



エレクトーン 小林武(こばやし たけし)先生

いきなりカッコいいロックンロールなお兄さんが登場!
私達のCDをあらかじめ聴いてくださっていたようで、「Deep Purple : Smoke on the Water」が課題曲に。
まるで1人ロックバンドとも言える迫力のデモプレイを前に、さらにド緊張の2人。

今回は2台のハイテクエレクトーンを使用し、NANA-A がリズムパターン、MAYOU がメロディーとベースを担当することに。



エレクトーンに入っているたくさんの音色の中より好みのものを選びてもらい、あっという間に設定が完了。
手足別々の動きが大変そうですが、教えていただいたとおりにシンプルなパターンをゆっくり演奏していくと……
ちゃんと曲になってる! 感動!

その他にもエレクトーンが自動で作曲アレンジの手伝いをしてくれたり、なんと人の声の音色まであったりと、「エレクトーンツーピースバンドもあり!?!」というくらい盛りだくさんな体験をさせていただきました! ^^



ウクレレ 斉藤学(さいとう まなぶ)先生

以前、さくらプラザでもお会いしたことがあった優しい斉藤先生。
リースの持参した(長年放置の)My ウクレレを丁寧にメンテナンスしてくれました。
華麗な試し弾きにハワイの風を感じ、思わずうっとりする2人。
本日の課題曲はウクレレを知らなくとも誰もが口ずさめる「牧伸二:あゝやんなっちゃった」。



まずは基本の持ち方やストロークを教わります。
「弦は地上から数えて1階2階……、フレットは1号室2号室……と部屋感覚で覚えると便利だよ!」なるほど!
ギターとはまた異なる押さえ方のC/G/D7の3コードを教わり、いよいよ演奏スタート。

2人の弾くコードに合わせ先生がアドリブで乗せてくれるメロディーがまた気持ちいい!
あまりに楽しすぎて最後は大合奏しちゃいました♪

初のお稽古を終えた感想は……「来週も通いたいくらい、本当に楽しかった!」
斉藤先生からの名言「ギタリストに褒められるギタリストや、ドラマーに褒められるドラマーより、聴いてくれる万人を感動させられるプレイヤーのほうがいいでしょ? 同業者だけじゃなく初めての人にこそ伝えたい!」を胸に、さらに精進したいと思います!! 次は苦手な○○○に挑戦か……!?



協力:ハマヤ楽器戸塚西口センター
「春の体験レッスン参加者募集中!!」
お気軽にご参加下さい。
【ご予約・お問い合わせ】
TEL:045-864-3330(佐々木・西川)

THE LEAPS(ザ・リース)
横浜市戸塚区出身・幼なじみ同士のGt&Vo.MAYOUとDr&Vo.NANA-Aからなる2ピースバンド。
5月5日より2度目の海外ツアーへと出発します!
■オフィシャルホームページ <http://theleaps.net>



小林武先生



斉藤学先生





LES TIMBRES & HARMONIA LENIS

水内 謙一のヨーロッパ演奏紀行

新連載



はじめまして！ リコーダー奏者の水内 謙一と申します。10月28日(土)にさくらプラザで行われるイタリア・バロックのコンサートに出演させていただきます。今回から始まるこの連載を通して、演奏会までに私たち演奏者やコンサートのことを、皆さまにご紹介できたらと思っています。

私たちはフランス人とベルギー人、日本人の5人のアンサンブルです。17世紀、日本でいえば江戸時代が始まった頃……という古い時代のヨーロッパの音楽を演奏しています。旋律楽器を担当するのはリコーダーとヴァイオリン、またヴィオラ・ダ・ガンバという足で挟んで演奏する弦楽器(写真中央の楽器です!)、そして鍵盤奏者2人は、チェンバロと小型オルガンを両方演奏します。写真のとおり、コンサートでは中央にオルガン、両サイドにチェンバロを配置し、鍵盤奏者2人は3つの鍵盤楽器を駆使して、オルガンの荘厳な音色と、華やかなチェンバロの音色を曲によって使い分けます。



レ・タンブル&ハルモニア・レニス Les Timbres & Harmonia Lenis

私たちはヨーロッパと日本で演奏活動を行っています。ヨーロッパの演奏ツアーでは、フランスやベルギーを中心に各地の音楽祭を演奏してまわります。チェンバロやオルガンをはじめすべての楽器を大型車に詰め込み、演奏者たちも乗り込んで皆で各地を旅芸人のように移動します。各地で出会う素敵な人々やおいしい食べ物、連日移動ばかりの鬼のようなスケジュール(笑)……ツアーの詳しい様子はまた次回の連載でお伝えいたします!

甘美なる イタリア・バロック 2017年10月28日(土)14:00開演(13:30開場) 予定 *詳細は6月初旬公開予定

男は背中で物語る

トツカミカエリオヤジ 戸塚見返親仁

其之二十四

商店のご主人など、戸塚区内で働いているオヤジ世代をご紹介します。コーナーです。

「和楽器のぼる」のねもと まさゆき 根本 昌之です!



顔見世

江戸時代、浮世絵にも描かれた吉田大橋のたもとにある「和楽器のぼる」。

今回は2代目ご主人の根本さんにお話を伺ってきました。

先生を紹介することもあります。小学校の体験授業にも行ったりしますが「へえ〜」という感じで興味は示してくれます。中学校の体験授業では男女問わず「お琴やりたい」「三味線やりたい」と生徒さんが言うこともあります。和楽器も意外と人気があるんですよ。最近の傾向としては学校の授業で和楽器を触ったことがある生徒さんが増えてます。でもそれをお稽古事としてやるかというとなかなか……。

一お店はいつ創業されたのですか?

平成元年に創業しましたので29年目になります。

一ご主人は2代目という事ですが、このお仕事をされてどのくらいですか?

17年くらいです。

一楽器は何か演奏されたりしますか?

三味線を弾きますが、なかなか時間がとれないので……僕は楽器を演奏するというよりは、あくまでも職人ですね。



一お店にはどのような方がいらっしゃいますか?

和楽器の先生方やお弟子さん、あとはふらっといらして津軽三味線をやりたいという方もいます。そのような方には

一ピアノ等と比べると敷居が高い感じがしますね。そんなことはないんだけど、そのイメージですよ。あとは今、学校の部活動のサポートをしています。こちらには多くの生徒さんが参加されています。やはりこういう業界にいるからこそ、和楽器というものを少しでも身近に感じてもらいたいですね。

一ありがとうございました!

親仁に逢いに行こう!

和楽器のぼる
横浜市戸塚区吉田町 582-1
TEL:045-864-6954
営業時間 10:00 ~ 18:00
定休日 日曜・祝日



次号の親仁は……?

哀愁漂う後ろ姿から何処の親仁さんだろうと想像してみてください。次号では見返りポーズでお顔を公開します!

TBS系ドラマ「仰げば尊し」 実話が基になっていたことをご存知でしょうか? そのモデルとなった高校出身で、現在トランペット奏者として活躍されている杉本 正毅さんによる「吹奏楽の達人」コーナーが始まります! 吹奏楽との出会い、そしてプチアドバイスなどなど……乞うご期待!

新連載

吹奏楽の達人 Vol.1

みなさん、こんにちは! トランペット奏者の杉本です。これから何回かにわたり私と吹奏楽との関わりについてお話しさせていただきます。

私にとって『吹奏楽』とは3人の恩師との出会いなくしては語れません。その恩師との関わりを交えながら、吹奏楽についてお伝えしたいと思います。ではまず私と吹奏楽との出会いについてです!

私が吹奏楽と出会ったのは中学校に入った時でした。小学校6年生の時に学校の鼓笛隊にトランペットが3本あったのがきっかけで、担任の先生に勧められ少しだけ吹いたことがありました。その経験があったからか、中学校の吹奏楽部に入学したのはごく自然なことでした。

私が入部した横浜市立港南中学校吹奏楽部はとても伝統のあるバンドで、かつては吹奏楽コンクールの全国大会にも出場していました。仮入部の時、初めて合奏を見学し衝撃を受けました。

当時、顧問をされていた碓井敏郎先生の、厳しくそしてとてもレベルの高い指導に感動しました。私はその時『これだ!』と、中学生ながら心の中で大きく叫んだのを今でもはっきり覚えています。



中学生時代の杉本さん

その時はなんだかわからないけど、とにかく楽しそう! というワクワクした気持ちだったのでしょうか。みんなで色々な楽器を吹いてひとつのサウンドを作っていく、という吹奏楽の醍醐味がそこにはあったのだと思います。それが自分にとって、まず大きな出会いでした。(つづく)

トランペット奏者 杉本 正毅 Masaki SUGIMOTO



1967年、横浜生まれ。神奈川県立野庭高等学校卒業後、東京音楽大学で津堅直弘(元N響首席奏者)氏に師事。大学卒業後、東京吹奏楽団に入団。東京吹奏楽団で演奏する傍ら日本の主要オーケストラやミュージカル等、また海外アーティストのツアーでも演奏活動をしている。現在、東京吹奏楽団トランペット奏者、洗足学園音楽大学、上野学園大学各講師。日本トランペット協会常任理事。ナカザワキネン野庭吹奏楽団音楽監督。

出張! 戸塚新聞

webマガジン「戸塚新聞」の出張版。戸塚区のディープな情報を鋭意取材中! 詳しくは「戸塚新聞」で検索!

#08 髪 あの有名サッカー選手が常連さん! ドリーム理容店

以前、取材させてもらったパティスリー・カフェ・バー「KIKUZO」に個人的にランチに行きました。デザートの盛り合わせにウツリしながら戸塚界隈に事情通であるオーナーパティシエの菊池さんに、「近辺でオモシロイ情報はないですか?」と聞いてみたところ紹介してくれたのが、「ドリーム理容店」。

戸塚の秘境とも言われるドリームハイツのおひざ元。一見したところフツウの店。しか

し!元サッカー日本代表選手が小学生時代から通うスペシャルな理容店☆店主の戸井田光弘さん「父親の代からすると50年くらい営業してます。自分のキャリアは35年ほど。選手をずっと担当しているので、よく知った間柄です。国内外でどんどん活躍して有名になっていくのが、自分のことのように嬉しかったですよ。」

店内には至るところに、選手ゆかりのグッズが飾られ、ファン

はヨダレが出るほど羨ましいのでは!? 戸塚の奥地に有名人がお忍び?で通う理容店。長きに渡り信頼を寄せるのは店主の戸井田さんの安定した技術と気さくなお人柄の賜物か!

選手とのストーリーを語った、インタビューの全てはwebにて公開中!

戸塚新聞 ドリーム理容店 検索



今回取材したお店

ドリーム理容店
横浜市戸塚区深谷町1647-5
Tel:045-851-3948

Information
「戸塚新聞」とは
戸塚区の情報満載のWebマガジン。知っているようで知らない「戸塚」の魅力的な情報を発信。戸塚新聞のすべての記事を読みたい人は「戸塚新聞」で検索!

検索



隔月、金曜夜8時、ベートーヴェンのピアノの調べに酔いしれる。

若林 顕セルフプロデュース
ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 全32曲
ラストシーズン

Vol.19 5/12(金)
 Vol.20 7/21(金)
 Vol.21 9/29(金)
 各回20:00開演
 全席指定 前売2,000円/当日1,500円
 学生1,000円
 シーズンシート(3公演セット券)4,000円



アンコール Vol.3

11/10(金)19:00
 全席指定 前売3,000円
 当日2,500円
 学生1,000円

4年にわたるシリーズもついに最終回!
 19時より2時間のプログラムでお届けします。

Ticket さくらプラザ電話予約
 5/10(水)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00から



※各公演、前売券以外はさくらプラザのみでの販売となります。

NAOTO アコースティック デュオ・コンサート

NAOTO (Vn)、榊原 大 (Pf)

5/27(土) 14:00

全席指定 一般4,000円
 ベアチケット7,500円
 横浜市民3,500円
 横浜市民ベアチケット6,500円
 EX席(2F見切れ席)2,000円



名曲サロン Vol.8 「フェリス・フラウエンコーア」

～山手の丘から歌の花束～
 フェリス・フラウエンコーア
 (フェリス女学院大学のミュージズたちによる声楽アンサンブル)

6/11(日)14:00
 全席指定 一般1,500円
 学生1,000円



会場:さくらプラザ ホール

奥村 愛&大萩 康司 デュオコンサート

～ヴァイオリンとギターの織りなす上質な調べ～

奥村 愛 (Vn)、大萩 康司 (Gt)

6/24(土) 14:00

全席指定 一般3,000円
 ベアチケット5,000円



堤 剛&萩原 麻未
CDリリース記念 デュオ・リサイタル

堤 剛 (Vc)、萩原 麻未 (Pf)

7/2(日) 14:00

全席指定 一般4,000円
 横浜市民3,500円



劇団かかし座 夏休みファミリー公演
「ふしぎな時間 もしもの国で」

7/29(土) [第1回] 11:00 / [第2回] 14:00
 全席指定 一般1,500円
 こども1,000円(小学生以下)

※0~2歳児はひざ上鑑賞の場合のみ無料



共催 春風亭小朝 独演会

8/19(土) 13:30 全席指定 3,500円

Ticket さくらプラザ窓口購入 *さくらプラザでは
 6/21(水)9:30~ 窓口販売のみ取扱い



Ticket さくらプラザ電話予約
 5/25(木)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00から

同時開催

真夏の
こども探検隊

～ようこそもしもの国へ～

7/29(土)9:30~16:00 (予定)

*詳細はチラシもしくはホームページをご覧ください。(6月初旬公開予定)

前橋 汀子プロデュース Vol.8
前橋 汀子 ピアノ・トリオ

前橋 汀子 (ヴァイオリン)、原田 禎夫 (チェロ)、
 松本 和将 (ピアノ)

10/21(土) 14:00
 全席指定 戸塚区民3,000円
 一般3,500円



Ticket 抽選申込受付中 締切:6月30日(金)必着 ※申込み多数の場合は
 抽選となります。
 官製はがき 応募用紙 HPの応募フォーム
 いずれかの方法にて申込み

おたより
 コーナー

掲載された方には、お好きなさくらプラザ主催公演
 チケット*をプレゼント!

*ご希望に沿えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

●氏名 ●掲載用ペンネーム ●ご住所 ●お電話番号 を必ず記載の上、郵送もしくはメールにてお送りください。

※ご記入いただいた個人情報は、当コーナーの目的以外には使用いたしません。※200文字程度におまとめください。

※誌面の都合上、原稿を一部修正させていただく場合がございます。

編集後記 桜の季節もあつという間に終わり、新緑が気持ち良い季節になりましたね。爽やかな風に誘われて、さくらプラザへ遊びに来ませんか? (桑田・山上)

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

http://www.totsuka.hall-info.jp

event@totsuka.hall-info.jp



Vol.23
 5・6月号

2017.5.1発行